

『天使が伝えた二つの名前』 マタイ1章18～25節 2016.12.4(聖日礼拝説教より)

『マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。…その名はインマヌエルと呼ばれる(神は私たちとともにおられる、という意味である)。』マタイ 1:21、23

①**神の救いを正しい心で!** 御使いから御子誕生の知らせを聞いたのは最初がマリヤ、続いてヨセフ! 結婚前にマリヤは懐妊し、ヨセフは「聖霊による神の御子」と聞かされるも悩んだ! 信仰では理解できても、現実には、マリヤが姦淫罪で処刑の危機…どうする? 聖書は、「ヨセフは正しい人で…」と告げる。「正しい」とは、神との正しい関係に生きること。この状況で、なおマリヤを愛するにはどうすればと悩み祈る彼は、御使いより「マリヤをそのまま迎え、その名をイエス(神は救い)とつけよ!」と聞き、理屈を越えて、素直に信じ、即座に従った! ここに、神の救いを実現する信仰の姿がある。◆人は理解できないことに疑いや不満を抱き、不信仰になる。しかし「この方こそ救い主」との言葉以上に信頼すべきものは世にはない! イエス様は「第二のモーセ」! イスラエルの失敗の歴史を全て踏み直された! すべてのマイナスをプラスにされる神の救いを「正しい」心で受けとめたい(創世 50:20)!

②**神が人とともに!** 「インマヌエル」とは、神と人が一つになること。しかし人となられた神(イエス)は、神であることを捨て、完全に人として歩まれた(ピリピ 2:6～8)。その姿は、貧しく、弱かった。主は朝ごとに御父に祈り、語るべき言葉も、奇跡を起こす力も、毎日その都度いただかれた。ゲッセマネの主の姿(悶え苦しみ、死を恐れ、悲しみ、弟子たちに祈りを求められ…)は弱い人間の姿そのもの! 逆にその姿は、徹底して御父を信頼し、御霊に聴きうべき私たちの人生のモデルだった! その弱さこそ、神と人が共に歩むときの安心と幸せ、勝利の人生を証するものだった! ◆神は、この世で苦しみ、悩み、悲しみ、罪に汚れ、悪に支配されている私たちを救うために、「インマヌエル」という最後の「切り札」を送られた。このイエスこそ、私たちを罪と死、人生の絶望から救う最後の希望! 「この方こそ、私たちを罪から救う方」と聞いた私たちは、今日「あなたこそ、私(たち)を罪から救う方」と正しい告白をもって生涯を全うしたい!

★あなたはヨセフのように、御言葉を素直に信じ、日々従っているだろうか? そうできていないのなら、何が原因だろうか?